



イルミネーションが街を彩る季節になりました。駅前にはぎやかですが少し離れた西川緑道公園は落ち着いた雰囲気でおおすすめです。今回も引き続き研修のおさらいです。

【1-1 麻痺等の有無（有無）】テキスト31頁～35頁



□調査方法・判断基準における留意点

- 軽度の可動域制限がある場合は、関節の動く範囲で行う(上下肢共通)
- 下肢麻痺の確認動作を椅子で行う場合は座位の姿勢に気を付ける
- 「日常生活上の支障」で考えるという規定は他の調査項目も含め、基本調査の選択においては存在しない。

麻痺の有無は「角度」は基準にしないよ。  
「下肢麻痺」の試行は大腿部が椅子から離れないことが条件だよ。  
座り方によって挙上できる高さが変わってくるよ。



□特記事項のポイント

日頃の状況＝日頃の確認動作の可否

- 確認動作と日頃の状況が異なる場合
- 基本調査の選択肢で「どちらの選択も妥当」と感じた場合
- 試行できなかった場合は試行できなかった理由

【特記事項例①】

拘縮なし。麻痺は試行できず尋ねるも返答なかったため、「右上肢・左上肢・右下肢・左下肢」とした。

【選択肢】 右上肢・左上肢・右下肢・左下肢

なぜ試行できなかったのだろう？  
聞き取りもできなかったみたいだけど、これだけで評価していいのかな？  
日頃の状況はどうなんだろう？



確認動作を行ってもらえなかった場合は  
聞き取った状況に基づいて選択肢を選ぶよ



【追加で聞き取り】

上肢は問題なく動かせる。下肢は靴を履くときに声を掛けると椅子に腰かけ足を真っ直ぐ前に振り出すので、家族の膝に足を乗せて履かせている。

聞き取り：家族

【修正版 特記事項例①】

拘縮なし。確認動作について声を掛けるが応じず試行できず。本人にお手本を示し尋ねるも返答なし。家族より上肢は問題なく動かせ、下肢も靴を履くときに椅子に腰かけ足を真っ直ぐ前に振り出せると聞き取ったため、麻痺なしとした。

【選択肢】なし



【試行及び聞き取った状況】

ベッドに腰掛け試行した。拘縮はない。左下肢は自分で挙上し静止できた。右下肢は2/3程度の挙上であり静止はできたが「どたん」と音を立てて足を降ろした。家族より普段は右下肢は挙がりにくく、靴下を穿かせるときは家族が踵を持ち上げ履かせているが、今日は頑張っていたようだと言き取る。

【特記事項例②】

ベッド端座位で試行。拘縮なし。左下肢は自力で挙上静止を確認。右下肢は2/3程度の挙上であり、静止はできるも音を立てて足を降ろした。

【選択肢】麻痺なし

試行で挙上静止できたから「麻痺なし」を選択したんだね。  
家族から聞き取った日頃の状況とは異なるけど「麻痺なし」でいいのかな？



【修正版 特記事項例②】



ベッド端座位で試行。拘縮なし。左下肢は自力で挙上静止を確認。右下肢は2/3程度の挙上であり、静止はできるも音を立てて足を降ろした。日頃は靴下着脱時、家族が右下肢を保持していると聞き取り「右下肢」を選択した。

【選択肢】右下肢

～ 編集後記 ～

「認定調査だよりを楽しみにしています」との声をいただきました。お役に立っていれば幸いです。冬本番になってきました。体調管理に気を付けて素敵な年末年始をお過ごしください。今年も1年間ありがとうございました【平成29年12月8日 発行元：岡山市介護保険課】